

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-221267

(P2017-221267A)

(43) 公開日 平成29年12月21日(2017.12.21)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 1 B 5/1171 (2016.01) A 6 1 B 5/10 3 6 2 4 C 0 3 8

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2016-117279 (P2016-117279)	(71) 出願人	501339458 オオクマ電子株式会社 熊本県熊本市東区長嶺西1丁目8番104号
(22) 出願日	平成28年6月13日 (2016.6.13)	(71) 出願人	516175744 オオクマ・ソリューション関西株式会社 京都府京田辺市興戸地藏谷1番地
		(74) 代理人	100142701 弁理士 吉永 純一
		(72) 発明者	大隈 恵治 熊本県熊本市東区長嶺西1丁目8番104号 オオクマ電子株式会社内
		(72) 発明者	古本 活之 京都府京田辺市興戸地藏谷1番地 オオクマ・ソリューション関西株式会社内
		Fターム(参考)	4C038 VA04 VA07 VB03 VC05

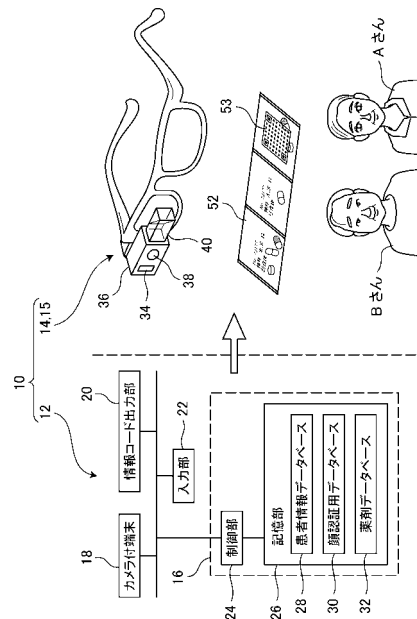
(54) 【発明の名称】 患者取違防止システム

(57) 【要約】

【課題】より簡易な構成で構築可能で、そのため低コストで患者の取違い等の医療ミスを防止可能な患者取違防止システムを提供する。

【解決手段】予め患者の顔を撮像し、顔認証用元データを取得する顔認証用元データ取得手段と、患者に係る情報と顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段と、顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段と、情報コードを出力する情報コード出力手段と、人の顔を認識可能な携帯端末とを備え、携帯端末は、情報コード読取部と、情報コードに対応する顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部と、顔認証用データと顔認証用元データとを照合する照合部とを含む。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

予め患者の顔を撮像して得られる顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データを取得する顔認証用元データ取得手段と、前記患者に係る情報と前記顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段と、前記顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段と、前記情報コードを出力する情報コード出力手段と、撮像部を有する携帯端末であり、前記撮像部で撮像される画像から人の顔を認識可能な携帯端末と、を備え、
前記携帯端末は、
前記情報コードを読み取る情報コード読取部と、
前記情報コードに対応する前記顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、
前記撮像部を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部と、
前記顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部とを含むことを特徴とする患者取違防止システム。

10

【請求項 2】

前記携帯端末は、眼鏡型ウェアラブル端末からなることを特徴とする請求項 1 記載の患者取違防止システム。

20

【請求項 3】

前記携帯端末は、前記照合部による照合結果を表示する表示部を含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の患者取違防止システム。

【請求項 4】

前記情報コードは、2次元バーコードよりなることを特徴とする請求項 1～3のいずれかに記載の患者取違防止システム。

【請求項 5】

前記情報コード出力手段は、前記 2次元バーコードを印字するバーコードプリンタを含むことを特徴とする請求項 4 記載の患者取違防止システム。

30

40

50

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、医療行為の対象となる患者の取違え等の人為的ミスによる医療事故を未然に防止するための患者取違防止システムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、医師の処方箋に基づいて薬剤を払出し、薬剤を薬袋に入れ、例えば患者を担当する看護師や介護者に渡すことがよく行われる。その薬袋には患者の氏名等が記載されており、受け取った看護師等がその氏名を確認してその患者に投与する行為が行われている。この薬剤の投与は、処方箋に従い適切に行われる必要があるが、往々にして、前述の様に人為的な確認に依存していたため、例えば患者の取違え等のミスにより、誤った薬剤を患者に投与するケースが後を絶たない。

10

【0003】

そのため、患者の取違え等に起因する医療ミスを未然に防止するためのシステムについて多くの提案がされている（例えば特許文献1）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2006-181303号公報

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献1には、医療機関において入院中の患者に投薬するための患者コード番号のバコドラベルを貼り付けた、および患者の詳細情報が書き込まれたICタグを埋め込んだ患者固有の投薬箱あるいは投薬袋を発行する手段と、投薬箱または投薬袋に貼り付けたバコドおよびICタグデータを読み取る手段と、患者に投薬する際に読み取った投薬箱あるいは投薬袋に貼り付けたバコドあるいはICタグデータと患者の腕あるいは足に装着した患者認証パッドの読み取りデータとを比較照合して患者本人の薬剤であるかの一致性を検証する手段を有する医療ミス防止システムが開示されている。

30

【0006】

特許文献1の医療ミス防止システムによれば、それぞれの患者毎にICタグを準備する必要があるため、システム構築のためのコストが高くなる虞がある。しかも、例えばICタグに書き込まれた患者情報が変化しない等のために、高信頼性を有するICタグを必要とされる場合等には、更にシステム構築コストが上がる虞があるという問題があった。

【0007】

そこで、本発明は、上記従来課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、より簡易に構築可能でそのため低コストで患者の取違え等の医療ミスを防止可能な患者取違防止システムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

40

【0008】

請求項1の発明は、予め患者の顔を撮像して得られる顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データを取得する顔認証用元データ取得手段と、前記患者に係る情報と前記顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段と、前記顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段と、前記情報コードを出力する情報コード出力手段と、撮像部を有する携帯端末であり、前記撮像部で撮像される画像から人の顔を認識可能な携帯端末と、を備え、前記携帯端末は、前記情報コードを読み取る情報コード読取部と、前記情報コードに対応する前記顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、前記撮像部を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得

50

する顔認証用データ取得部と、前記顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部とを含む、患者取違防止システムである。

【0009】

請求項2の発明は、請求項1記載の患者取違防止システムにおいて、前記携帯端末は、眼鏡型ウェアラブル端末からなることを特徴とする。

【0010】

請求項3の発明は、請求項1又は2記載の患者取違防止システムにおいて、前記携帯端末は、前記照合部による照合結果を表示する表示部を含むことを特徴とする。

【0011】

請求項4の発明は、請求項1～3のいずれかに記載の患者取違防止システムにおいて、前記情報コードは、2次元バーコードよりなることを特徴とする。

10

【0012】

請求項5の発明は、請求項4記載の患者取違防止システムにおいて、前記情報コード出力手段は、前記2次元バーコードを印字するバーコードプリンタを含むことを特徴とする。

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、予め患者の顔を撮像して得られる顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データを取得する顔認証用元データ取得手段と、前記患者に係る情報と前記顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段と、前記顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段と、前記情報コードを出力する情報コード出力手段と、撮像部を有する携帯端末であり、前記撮像部で撮像される画像から人の顔を認識可能な携帯端末と、を備え、前記携帯端末は、前記情報コードを読み取る情報コード読取部と、前記情報コードに対応する前記顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、前記撮像部を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部と、前記顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部とを含む構成であるから、例えば情報コード出力手段を介して出力された情報コードを配薬される薬包等に表示さえすれば、配薬する担当者は、携帯端末で情報コードを読取るとともに、患者の顔を撮像することで、予め登録された顔認証用元データと、配薬対象の患者の顔認証用データとを容易に照合できるので、より簡易に構築可能でそのため低コストで患者の取違え等の医療ミス防止可能な患者取違防止システムを提供できる。また、このような患者取違防止システムとして、例えば顔認証用元データを記憶したサーバを有するシステムと、携帯端末とをネットワークで接続し、携帯端末から顔認証用元データを読取るシステム等が考えられるが、本発明によれば、そのような大がかりなシステムを用いることなく、情報コードが表示された薬包等を介して、容易に照合できる。

20

30

【0014】

また、前記携帯端末は、眼鏡型ウェアラブル端末からなる構成であるから、例えば配薬する患者を確認する際に、頭部に装着した状態で患者を視認することで確認できるので、業務多忙な現場の担当者にとって利便性が高まる。

【0015】

また、前記携帯端末は、前記照合部の照合結果を表示する表示部を備える構成であるから、担当者は、例えば表示部を介して照合結果を容易に確認しつつ配薬できるので、患者の取違えを更に防止できる。

40

【0016】

また、前記情報コードは、2次元バーコードよりなる構成であるから、汎用性の高い患者取違防止システムを提供できる。

【0017】

また、前記情報コード出力手段は、前記2次元バーコードを印字するバーコードプリンタを含む構成であるから、例えばバーコードプリンタで2次元バーコードが印字された2次元バーコードシールを、配薬される薬包に貼付することで、配薬される薬包と、当該薬包

50

の配薬対象となる患者との対応を確実に行うことができ、更にミス防止に好適な患者取違防止システムを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の実施形態に係る患者取違防止システムを説明する全体概略構成図である。

【図2】本発明の実施形態に係る薬包の説明図である。

【図3】本発明の実施形態に係る患者取違防止システムにおける処理例を説明するフローチャートである。

【図4】本発明の実施形態に係る患者取違防止システムにおける処理例を説明するフローチャートである。

【図5】本発明の実施形態に係る患者取違防止システムにおける処理例を説明するフローチャートである。

【図6】本発明の実施形態に係る表示例を説明する図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、本発明の実施形態について図を用いて説明する。

本実施形態の患者取違防止システムは、予め患者の顔を撮像して得られる顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データを取得する顔認証用元データ取得手段と、前記患者に係る情報と前記顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段と、前記顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段と、前記情報コードを出力する情報コード出力手段と、撮像部を有する携帯端末であり、前記撮像部で撮像される画像から人の顔を認識可能な携帯端末と、を備え、前記携帯端末は、前記情報コードを読み取る情報コード読取部と、前記情報コードに対応する前記顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、前記撮像部を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部と、前記顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部とを含み、医療行為の対象となる患者を取り違えることを防止するシステムである。

【0020】

以下の説明において、「医療行為の対象となる患者」は、広く解釈することができ、例えば、処方箋に従って配薬する患者、病棟から手術室に移送する患者或いは、手術室で受け入れる患者等を意味する。

【0021】

また、以下の説明において、情報コードは、2次元バーコードを例にとって説明するが、情報コードは2次元バーコードに限るものではなく、例えば1次元バーコードやカラーコード等の様に、光学的に読取可能なコード或いはパターンであっても良い。

【0022】

本実施形態の患者取違防止システム10は、図1に示す様に、情報コード出力システム12と、携帯端末14とを有する。

本実施形態の情報コード出力システム12は、図1に示すように、サーバ16、カメラ付端末18、情報コード出力部20、入力部22等を備える。

【0023】

次に、サーバ16は、公知のパソコン等を用いることができ、図1に示すように、制御部24、記憶部26等を備える。

【0024】

次に、制御部24は、図示しないCPU、ワーキングメモリを備えており、図1に示すように、記憶部26、カメラ付端末18、情報コード出力部20、入力部22等に通信可能に接続される。

【0025】

10

20

30

40

50

次に、記憶部 26 は、公知のハードディスクで形成され、患者情報データベース 28 等が記憶される。

患者情報データベース 28 は、患者の氏名、生年月日、性別等の個人情報や、患者の保険者番号、患者識別 ID 等の患者識別情報を含むが、これらの情報は、患者毎に関連付けられている。また、顔認証用データベース 30、薬剤データベース 32 については後述する。

【0026】

次に、カメラ付端末 18 は、例えばカメラ機能を有するタブレット端末で形成される。従って、カメラ付端末 18 を介して患者の顔を撮像するとともに、患者の個人情報や患者識別情報を入力できる。

また、入力部 22 は、公知のキーボードやマウスで形成される。

【0027】

次に、情報コード出力部 20 は、情報コードとしての 2 次元バーコードをシールに印字可能な公知のバーコードプリンタ或いはラベルプリンタで形成される。そして、情報コード出力部 20 は、図 2 に示す様に、2 次元バーコードが印字された 2 次元バーコードシール 53 を出力する。図 2 の例では、薬包 52 に 2 次元バーコードシール 53 が貼付された様子を示すが、貼付されるのは薬包 52 に限るものではなく、カルテや手術箋等であっても良い。

【0028】

このように構成される情報コード出力システム 12 は、制御部 24 が、例えばカメラ付端末 18 からの入力信号の処理、記憶部 26 へのデータの書き込み処理、情報コードの生成処理、情報コード出力部 20 の出力処理をコントロールする。

【0029】

次に、携帯端末 14 は、図 1 に示す様に、例えば担当者の頭部に装着可能な眼鏡型ウェアラブル端末 15 で形成され、ウェアラブル本体 36 と、表示部 40 等を備える。

ウェアラブル本体 36 は、マイクロプロセッサ（図示しない）やメモリ等が搭載されるとともに、情報コード読取部 34 や撮像部 38 を備える。

なお、携帯端末は、本実施形態の眼鏡型ウェアラブル端末 15 に限るものではなく、持運び容易なタブレット端末、或いはヘッドマウントディスプレイ等であっても良い。

【0030】

次に、本実施形態の情報コード読取部 34 は、公知の 2 次元バーコードリーダで形成される。そして、後述するように、例えば前記マイクロプロセッサからの指示により薬包に貼付された 2 次元バーコードを読取る。情報コード読取部は、上述の 2 次元バーコードリーダに限らず、情報コードの種類に応じて読取機能を発揮するものであれば、例えば 1 次元バーコードリーダ、パターン読取器等であってもよい。

【0031】

また、撮像部 38 は、例えばイメージセンサや CPU を搭載したデジタルカメラを含み、撮像した画像から人の顔を認識させるソフトウェアがインストールされて形成される。そして、撮像部 38 の撮像領域は、人が眼鏡型ウェアラブル端末 15 を装着した状態で、装着者の目で略視認可能な範囲に調整される。

また、ウェアラブル本体 36 は、例えば情報コード読取部 34 や撮像部 38 を作動させる作動信号等の各種信号を、マイクロプロセッサに送信する操作ボタン（図示しない）を備える。

【0032】

次に、表示部 40 は、図 1 に示す様に、透過型のディスプレイで形成される。そして、表示部 40 は、図 1 に示す様に、装着したユーザの目の前方に位置する様に配置され、前記マイクロプロセッサの指示により、撮像部 38 による撮像画像を表示し、また後述する照合情報等をこれに付加して表示する。

【0033】

以下に、処方箋に従って患者に配薬する行為を例にとって患者取違防止システム 10 のフ

10

20

30

40

50

ローについて説明する。

[初期登録フロー例]

まず、例えば病院の受付等の担当者が、予め患者の情報を登録する際のフロー例について、図3を用いて説明する。

ステップS10において、受付担当者がカメラ付端末18としてのタブレット端末を介して、患者の氏名等の個人情報や、保険者番号等の患者識別IDを患者に係る情報として入力する。

カメラ付端末18からこれらの患者に係る情報を受信した制御部24は、上述した患者情報データベース28としてこれらの情報を記憶部26に登録し、処理をステップS12に移す。

【0034】

次に、ステップS12において、受付担当者がカメラ付端末18で患者の顔を撮像すると、制御部24は、カメラ付端末18から、患者の顔画像データを受信し、処理をステップS14に移す。

【0035】

次に、ステップS14において、制御部24は、その顔画像データの特徴を抽出する。具体的には、前記顔画像データから、顔の傾きや位置を検出し、基準点から眼の中心までの距離、唇の端の位置までの距離、眼の中心間の距離等を計測する。そして、制御部24は、これらの距離データ等を、抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データとする。

そして、制御部24は、顔認証用元データをその患者に係る情報と関連付けて顔認証用データベース30として記憶部26に登録し、処理を終了する。

このように、制御部24は、予め患者の顔を撮像して得られる顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用元データを取得する顔認証用データ取得手段として機能する構成となっているのである。

また、制御部24と記憶部26は、前記患者に係る情報と前記顔認証用元データとを関連付けて登録する登録手段として機能する構成となっているのである。

【0036】

[情報コード出力フロー例]

次に、例えば病院の調剤薬局等において行われる2次元バーコードシール53の貼付に伴って行われる処理フロー例について、図4を用いて説明する。

まず、処方箋が調剤薬局に渡ると、担当者は、処方箋に従って調剤し、図1及び図2に示す様に、薬包52に薬剤を封入する。そして、担当者は、入力部22から患者である例えばAさんの個人情報、識別情報、調剤した薬剤名、数量等を入力する。

【0037】

次に、ステップS16において、制御部24は、入力部22から、患者の個人情報、識別情報、調剤した薬剤名、数量等が入力されると、これらの情報を関連付け、薬剤データベース32として記憶部26に登録し、処理をステップS18に移す。

次に、ステップS18において、制御部24は、患者の個人情報や識別情報に基づいて、顔認証用データベース30を検索し、Aさんの顔認証用元データを抽出し、処理をステップS20に移す。

次に、ステップS20において、制御部24は、上述したAさんの顔認証用元データに対応する情報コードとしての2次元バーコードを生成し、処理をステップS22に移す。

このように、制御部24は、前記顔認証用元データに対応する情報コードを生成する情報コード生成手段として機能するのである。

【0038】

次に、ステップS22において、制御部24は、上記のように生成した2次元バーコードを、情報コード出力部20に送信し、情報コード出力部20は、当該2次元バーコードが印字された2次元バーコードシール53を出力し、処理を終了する。

このように、制御部24及び情報コード出力部20は、2次元バーコード(情報コードの

10

20

30

40

50

一例) を出力する情報コード出力手段として機能するのである。

その後、上述した調剤薬局の担当者は、図1及び図2に示す様に、2次元バーコードシール53を薬包52に貼付し、薬剤を受け取りに来た看護師或いは介護者等に渡す。

【0039】

[患者照合フロー例]

次に、例えば病院の病棟或いは家庭等の介護現場での配薬の際に実行される、患者照合のフロー例について、図5及び図6を用いて説明する。

まず、配薬担当者は、図1に示す眼鏡型ウェアラブル端末15を各自の頭部に装着し、2次元バーコードシール53を視認しつつ、情報コード読取部34を作動させる操作ボタン(図示しない)を操作する。

そうすると、ステップS24で、上述したマイクロプロセッサは、情報コード読取部34を作動させ、図2に示す2次元バーコードシール53を読取らせて、処理をステップS26に移す。

【0040】

次に、ステップS26において、前記マイクロプロセッサは、読取った2次元バーコードに対応する顔認証用元データを生成し、上述したメモリに一旦、記憶させる。

このように、本実施形態のウェアラブル本体36は、読取った情報コード(2次元バーコード)に対応する顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部として機能する。

そして、図1及び図6に示す様に、担当者が、眼鏡型ウェアラブル端末15を装着してAさん及びBさんをその視野に入れると、撮像部38で撮像されるAさん及びBさんの顔が表示部40に表示される。次に、担当者は、配薬対象となる患者を照合するためのボタン(図示しない)を操作する。

そうすると、ステップS28において、前記マイクロプロセッサは、Aさん及びBさんの顔画像データを撮像部38から取得し、処理をステップS30に進める。

【0041】

次に、ステップS30において、前記マイクロプロセッサは、Aさん及びBさんの顔画像データの特徴をそれぞれ抽出し、その特徴に対応する顔特徴データを含む顔認証用データを取得し、処理をステップS32に進める。

このように、ウェアラブル本体36は、撮像部38を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部として機能する。

【0042】

次に、ステップS32において、前記マイクロプロセッサは、ステップS26で生成した顔認証用元データと、ステップS30で取得した顔認証用データとを照合し、両者が所定の確率で一致する場合、処理をステップS34に移し、一致しない場合、処理をステップS28に移す。

このように、ウェアラブル本体36は、ステップS30で取得した顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部として機能する。

【0043】

次に、ステップS34において、前記マイクロプロセッサは、照合結果を表示部40に表示し、処理を終了する。

図6に、表示部40に表示される照合結果の表示例を示す。図6の例では、照合結果の表示例として、配薬の対象となる患者「Aさん」の顔を囲繞する矩形状のマーク54や「Aさん」の個人情報56が表示されている。

【0044】

この様に、携帯端末14としての眼鏡型ウェアラブル端末15は、前記情報コードを読み取る情報コード読取部と、前記情報コードに対応する前記顔認証用元データを生成する顔認証用元データ生成部と、前記撮像部を介して得られる人の顔画像データの特徴を抽出し、その抽出された特徴に対応するデータを含む顔認証用データを取得する顔認証用データ取得部と、前記顔認証用データと前記顔認証用元データとを照合する照合部とを含む構成

10

20

30

40

50

となっているのである、

【 0 0 4 5 】

以上の患者取違防止システム 1 0 について、主に処方箋に従って患者に配薬する行為を例にとって説明したが、例えば手術室で患者を受け入れる際に患者取違防止システム 1 0 を利用しても良い。その際は、手術の対象となる患者の顔認証用元データに基づいて生成した情報コードを、手術箋或いは手術伝票に印字し、手術室で患者の受け入れを担当する担当者が、携帯端末 1 4 を用いて患者の顔を撮像し、情報コードを読取り、これらを照合しても良い。

【 0 0 4 6 】

これまで説明してきた様に、本実施形態の患者取違防止システム 1 0 によれば、ICタグ等も必要とせずより簡易に構築可能で、そのため低コストで患者の取違え等の医療ミス

10

を防止可能な患者取違防止システムを提供できる。
また、本実施形態の患者取違防止システム 1 0 によれば、情報コード出力システム 1 2 と携帯端末 1 4 とを接続するシステムも不要になるため、より簡易に構築可能で、そのため低コストで患者の取違え等の医療ミス

【 0 0 4 7 】

20

を防止可能な患者取違防止システムを提供できる。
さらに、本実施形態の患者取違防止システム 1 0 によれば、眼鏡型ウェアラブル端末 1 5 を頭部に装着した状態で、医療行為の対象となる患者の確認を行うことができるので、業務多忙の現場の担当者にとっては、両手を使える等の利便性の高い患者取違防止システムを提供できる。

【 0 0 4 8 】

以上、本発明の実施形態のうちのいくつかを図面に基づいて詳細に説明したが、これら

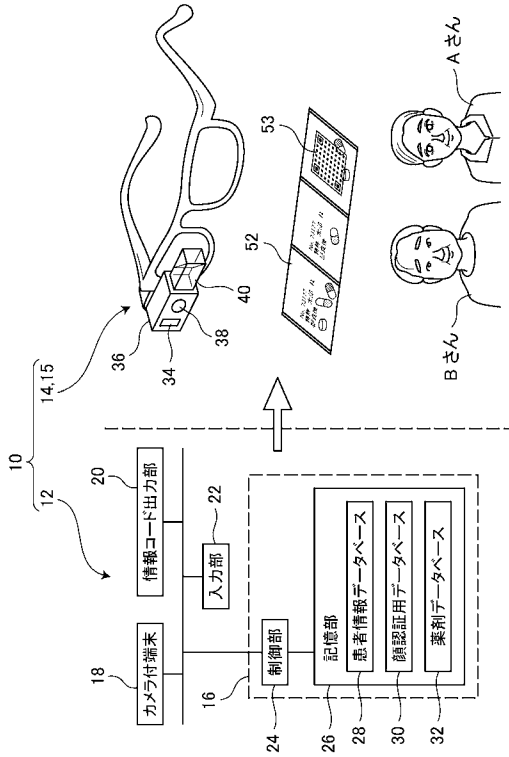
はあくまでも例示であり、当業者の知識に基づいて種々の変形、改良を施した他の形態で本発明を実施することが可能である。

【 符号の説明 】

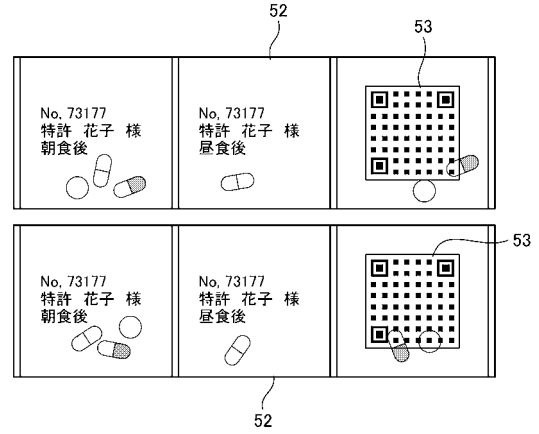
- 1 0 患者取違防止システム
- 1 4 携帯端末
- 1 5 眼鏡型ウェアラブル端末
- 1 8 カメラ付端末（顔認証用元データ取得手段）
- 2 0 情報コード出力部（情報コード出力手段、バーコードプリンタ）
- 2 4 制御部（顔認証用元データ取得手段，登録手段，情報コード生成手段，情報コード出力手段）
- 2 6 記憶部（登録手段）
- 3 4 情報コード読取部
- 3 6 ウェアラブル本体（顔認証用元データ生成部，顔認証用データ取得部，照合部）
- 3 8 撮像部
- 4 0 表示部
- 5 3 2次元バーコードシール

30

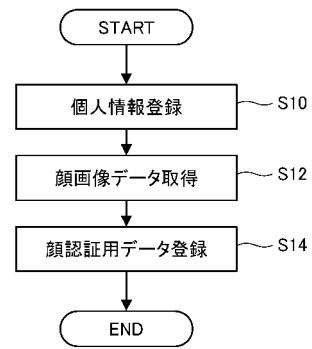
【図1】



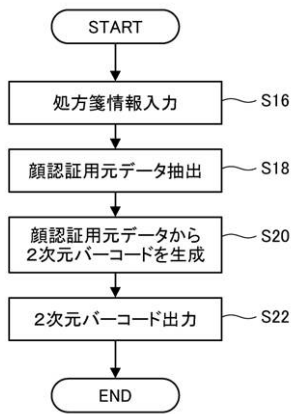
【図2】



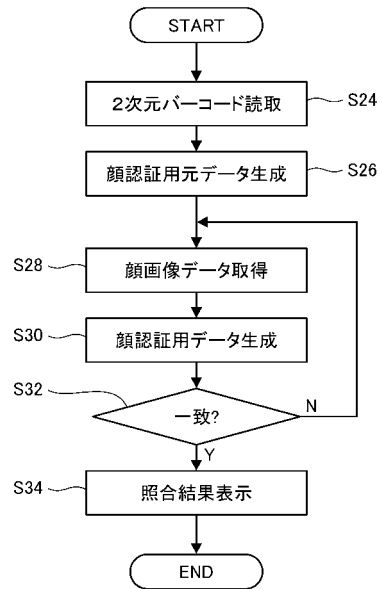
【図3】



【図4】



【図5】



【 図 6 】

